

入賞でも、納得いかず さらなる飛躍こそ、チームのエース

短距離陣の柱は、磯野と奥澤です。2人の個人種目には、期待が大きいですが、初日の奥澤は、雨で気温も低い条件でしたが、それでも厳しい結果でした。県大会がよかっただけに、再現性が必要でした。2日目の磯野は、状態はよいと思っていましたが、1本目のファールから、なかなか流れを引き戻せず、苦しい展開でした。2人には、手が付けられないぐらいの競技をしてほしいです。

○磯野:「今回の試合ではチームとしての目標であった自己ベスト更新を達成することができなかったことが悔しいです。ただそのなかでも6本目で3位に入り表彰台に乗れたことは良かった点だと思います。関東という舞台では自己ベスト以上のものを3本の中で出さなければならぬことを自分の肌で感じるのができたことが今回の収穫だと思います。来年度の春関東、全国で戦う選手になるためには1本目周りを圧倒する記録を出すこと、15mを超える跳躍をすることの2つを達成することが必要だと分かったので冬季でこの2つを達成するために練習に取り組んでいます。」



○奥澤:「来年度のインターハイの会場ということもあり、あの場所で、関東という舞台で、きちんと勝負し優勝することを目標に臨みました。しかし、助走が安定しないという、自分の悪い面がまた出てしまい、それによって他の部分も崩れ、試合の流れを掴んでいくことができませんでした。安定して同じことができなかったり、関東大会で力を出し切れなかったりする自分の弱さを改めて感じました。メンタルも含めて強くなり、インターハイで勝負するために、また練習に励んでいきます。応援、サポートありがとうございます。」

悔しい結果にも、 前を向き、来シーズンへ向かう！

①金子:「関東選抜では大きなミスはなく個人個人の走りが悪かった訳では無いですが、歯が立たずに終わってしまいました。今大会を通して、まだスタートラインにも立てていないんだということを実感しました。そして、前日練習やアップ、レース、レース外を通して関東で戦う選手の陸上に対する高い意識を感じる事ができました。今の段階で関東を知って、悔しさを持って冬季練習に挑めるので、今回、貴重な体験ができてよかったと思います。来年度また日産スタジアムで走れるように走りだけでなく人として成長して、戻ってきたいです。」

②岩本:「県大会後の記録会で100mの自己ベストを更新し、調子を上げて臨んだ関東選抜でしたが、関東のトップ層とのスピードの差や関東で勝つことの難しさを実感するレースとなりました。来シーズンは個人でも関東を目標に冬季の練習に励んでいきます。」

③奥澤:「県大会より上の大会でリレーを走るの、初めてに等しく、個人種目とは違う部分に課題を感じました。レース自体悪いものではなかったけれど、走力やレース前の準備など、強いチームとの差を実感しました。そういう面でも来年に向けてとても良い経験ができたと思うので、来年出場するだけでなく勝負ができるように、チーム全員で強くなります。」

④真瀬:「初めての関東大会でたくさんのことを学ばせていただきました。今回出場した4×100mリレーでは、周りのチームの速さへの焦りや、いろいろ考えすぎてしまった結果、遅出をしてしまいました。普段とは違う空気感の中でもそこに吞まれず、臨機応変に対応できる賢さを身につける必要があると改めて痛感しました。また、関東で戦うにはまだ走力が足りないことも思い知らされました。この冬季で壊れない身体作りをし、12.50を安定して出せるよう来シーズンまでに準備をしていきたいと思います。」

○西村:「この関東選抜は今シーズンずっと目標としていた58秒台を出すことができず、悔しさだけが残るものになりました。県大会が終わってからは練習の中で自分の感覚とタイムが合わないことがほとんどでした。レースは自分の感覚としては悪いものではなかったけれどタイムを出すことができなかったため、本番は練習でやってきた通りになるということを実感したのになりました。この期間で自分の走りを見直し何をしたらスピードに繋がるのかを見つけて、春になってまたシーズンが始まった時に自信をもってレースに臨めるようにこの冬強くなります。応援ありがとうございます。」

○佐藤:「関東選抜に男子やり投げで出場しました。最低でも自己ベストを更新し決勝に残ることを目標にして、自己ベストに近い距離を投げられれば確実に入賞できていたが、到底及ばない、情けない投擲をしてしまい、全く戦うことができませんでした。しかし、この時期に県大会以上の上位大会を経験できたこと、来年度のインターハイ会場で競技ができたことは来シーズンに向けてとても良い経験になりました。1年生、2年生と、成長は感じられましたが、結局最後はどちらも悔し涙になってしまいました。来シーズンは、八種競技で5500点、やり投げでは60mを目標に、どちらもインターハイに行きます。そのために今回の悔しい思いを糧にして、この冬季で何をしなければいけないのか、しっかり考えて1日1日を過ごし、3年目は嬉し涙で終われるよう、大化けします。」

○高橋:「今回は初めての県大会以上の大会で、自己ベストを目標に臨みましたが、結果は自分の望んだものにはなりません。空中動作がいつもよりも小さくなってしまったものもありますが、やはり原因はスピードの不足だと感じます。自分の中では助走の形も悪くなく走っている感覚もあったのですが、実際にはスピードは出ていなかったのだと思います。難しい環境ではあったもののこれ以上の大会で戦っていくためには、どんな環境でも安定して高い記録が出せるようなスピードが必要です。結果は満足しないものになりましたが、関東という場で競技をできたという経験を活かし、これから冬季に入りますが、体の使い方からしっかりと自分の助走、跳躍を見直し、次のシーズンに対しての準備をしていきたいです。」

でた。うんはは、考こだ賞跳跳mたたで川と
一今戦ドな、がえるす市7。関県21
区切れるに、ゼ口、予市50
シーベな、と、定高牛種新東の5
リーきつ、とい、位位王目人選日
ズンかた以、自、と。の戦抜産(月
。冬、時上、己、と、奥磯が出でがス日
季、考にの、た、3澤野1場権開ター日
は、え、ラ、の、名、が、5と利催ジに(土
へ、さ、ウ、さ、ど、入幅段0つ得れム奈

ラウンドが上がった時にどう戦うか？

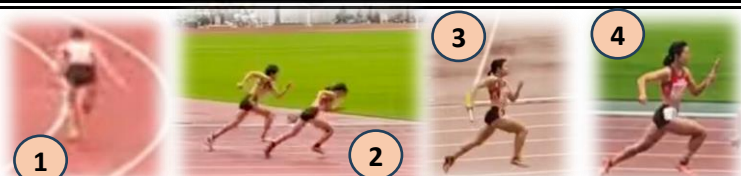
関東選抜報告

連戦でも勝負強さ 見事な優勝！ 牛王田

国スポ、駅伝との連戦で、かなり疲労もあり、予選はタイムでギリギリの通過となったが、決勝は、別人のように内容のあるレースをみせた。ラストの勝負強さが目立つレースで、秋シーズンを締めくくった。

○牛王田:「国スポ、駅伝と続いて連戦で関東でしたが、ある程度のタイムでまとめられました。予選は久しぶりの1500で、ペース感覚を忘れていて、上手く走れませんでした。がギリギリタイムで

拾われ決勝へ進めました。決勝では後ろの方からスタートでしたが、着実に前へ前へ出て、ラストスパートでなんとか競り勝ち、優勝することができました。優勝は良いことですが、来年はさらに強い選手が出てくるので、そこに負けないようにこれからしっかり準備して行こうと思います。」



○短距離遠征予定

十一月七日(土)

○B週火曜日授業

十一月六日(金)

○文化の日

十一月三日(火)